

2019年5月18日(土) 15:00-18:00

参加：11名
司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加2名を含む総勢11名で、主に、なぜ国という単位が必要なのか、アイデンティティとはどういう関係にあるか、国にとって欠かすことのできない機能とは何か、について対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起：

- ・進行役から新元号「令和」となったことを契機に国について考えたいと説明し、本問いを提起した。

(1) 参加者が国を意識した／感じた事例（場面）：

- ・初めに、参加者から下記のような国を感じた経験、国を意識した経験を挙げてもらった：
 - ①米国の食べ物に飽きて結局日本食を食べてしまった。そのとき日本人だなと思った。
 - ②台湾と香港の人に「どちらも中国？」と言ったら即座に「違う」と反論されて国を意識した。
 - ③ニュージーランドの山を登っていて見慣れない草木を見て、土地柄や気候の違いで国を感じた。
 - ④欧州人達と仲良くなり各国の歌を歌うとなったとき、どの曲を歌うか歌える歌がなく戸惑った。
 - ⑤パスポートを取ったとき日本国民を意識した。
 - ⑥辺野古工事差し止めの訴えを起こしたというニュースで県が国を訴えることがあると気付いた。
 - ⑦税金が上がるニュースを聞くと国民の義務を意識した。
 - ⑧インド・ロシアを旅行したときその風景の多様性に驚き、一方で日本は幹線道路でマクドナルドと紳士服店がいつもあると思った。
 - ⑨サッカーの試合で日本が負けると「何で？」と考え、文化・空気感の違いを意識した。
 - ⑩サッカーの試合を観戦中にドイツを応援していたら、周りの日本人から「非国民だ」と言われた。
 - ⑪ドラッグストアで働いていて、外国人から癌や肝臓病の薬を要求されると、国が違うと持っている情報も違うのかと感じた。
 - ⑫その国に産まれるのは性別と同じように選ぶことができないはずなのに、「台湾人は明るい」等国柄のように人の性格を判断してしまうときに国を感じた。
 - ⑬（学校の）クラスが大きくなったような仕切りのようなものである。仕切りが変わったらそのように変わっていくはずなので、単なる便宜的な仕切りだと思った。

(2) なぜ国という単位が要るのか？

- ・世界が一つになった方がいいと思うが、全てをまとめることは色々大変。だから国がある。
- ・国という単位に分けたい気持ちは分かる。自分からその囲いに属したい。なぜかと言うと、(同じ属性を持つ人達と)一緒にいて傷を舐め合うというか、自分が弱いからだと思う。
- ・国には人々を守る機能がある。武力で攻められたら国が守るルールになっている。→民兵(民間軍)という仕組みもある。防衛は必ずしも国の機能でなくともいいはずだ。
- ・人数の一番大きな区切り・行政区分である。その区切りでは土地や言語を持っている。
- ・エイリアンに攻められる等の理由から国を超えて何かを一緒にになると一纏まりになるのではないかな。ドラえもんのかどこでもドア>や<翻訳こんにやく>等の道具があれば一つになることができる。
- ・国とはアイデンティティのことではないか。国がないと今自分がどこにいるかを示したり説明したりし難い。だから市区町村等の細かい区切りが要る。
- ・それぞれの地域で暑い・寒いや乾燥している・湿気がある等気候や風土が違うため、求められるものが違うため、一つにするのは難しい。
- ・一つに集めて決めることが難しい。そう考えると国という単位が合理的なのかもしれない。
- ・私という性質・性格に何かを足していくものである。私という存在は、どんどん細かくしても他人との区別が難しい。だから定義するために、国が必要で、都道府県、市、町というように区分がある。→それは位置情報という観点であり、アイデンティティか？
- ・確かに、どのように私を定義するかは、(なぜではなく)どのように(How)の話である。

(3) アイデンティティとは何か？その1

- ・国よりも大きい・小さいアイデンティティはあるか？
- 国よりも大きなアイデンティティの例としては、イスラム教等の国よりも大きな集団が信じる宗教がある。また、小さなアイデンティティの例としては、方言等の地域に限定された言語がある。
- ・アイデンティティとは、自分を構成する要素の中で大きな範囲を占めるものである。
- ・ここで言うアイデンティティとは、その集団への同属意識のようなものである。
- ・サッカー応援の時に一緒に着る青いユニフォーム、斉唱する国歌、あるいは、基準として定める標準語のように、共通な何かを持つ集団のことである。

(4) 国とアイデンティティはどう関係するのか？その1

- ・国＝アイデンティティか？は疑問である。
- ・だが、確かに国にいるとゆるい安心感はある。米国で同郷の人と出会うとホッと安心する。
→私は何となく日本代表を応援している。そういう意味では、国を問わないしあまり考えない。

(5) 人類は一つになった方がいいのか？その1

- ・逆に色々な国があった方がいい。(国があるのは) 多様性確保のためではないのか。
- ・インバウンドの人達と話をすると確かに自分とは違うということに気付く。人は、自分と違う存在と触れて初めて自分という存在が分かる。
- ・国が違うことが必要なのか？ 全人類が地球人として存在するというように、一つになれないか。
→目的や趣味が同じ人と一緒にいると安心する。だから、そういう仲間が必要である。

(6) 国境はなぜできたのか？

- ・なぜ国境があるのか。歴史を振り返ってみると(水や鉄等のより良い生活のための材料である)資源の奪い合い(=戦争)の結果からできたはずである。
→だから、逆に言えば、資源がしっかりと行き渡れば、一つになることができるのではないか。
→資源を分かち合えないのだろうか。
→もう少し緩い境にしてもいいのではないか？
→区から区は簡単である一方で、国から国へは難しい。
→考えてみたら相当に大変そうである。なぜなら、アフリカの飢餓に喘いで、2ドルで10食分にもなるような最貧国の人達をドッと迎え入れるというような局面も想定する必要があり、自分達の持つ富や資源を(一時的かもしれないが)一緒に分かち合うということは容易にはできそうもない。

(7) アイデンティティとは何か？その2

- ・欧州プロサッカーのチーム(例;アーセナル、チェルシー)に所属する選手の国籍は代表チームでも多様であり、同属意識というものはありそうでなさそうである。
- ・日本では同属意識は強い。だから、逆にそれが普通なので取り立てて大声で叫ばなくても同じであるという安心感がある。逆に、米国ではそれが弱いので、声高に自由やアメリカンドリームを叫ばないと同じであるという安心感を保てないのではないか。

(8) 人類は一つになった方がいいのか？その2

- ・国を一つにするにはそのルールを一つにする必要があるが、それは無理に思える。
→一気にではなくても、部分的に、徐々に共通化していくことはできるのではないか。EUが通貨共通化として実践しているように、ある分野だけでも共通化をしていくことで異国に徐々に慣れてきて、互いの敵対心が少なくなっていくのではないか。

(9) 国とアイデンティティはどう関係するのか？その2

- ・国とアイデンティティとの関係は多様である。ドイツ議会ホールの見学コースでは、そこから市民が24時間議会を見下ろすことができる。そういうアイデンティティもある。

(10) 国において欠かすことのできない機能とは何か？

- ・自分の富を守る機能である。究極的には、それは親の富を子が受け継ぐことができることである。
- ・個人が国となることはできないか。
→それは難しそうである。現在国が行っている外交や国防、関税の合意による物の価格の設定まで全てを個人が行わなくてはならないからである。
- ・国に必要なものは何か？
→そこにいる人々を、外敵の武力から守るという防衛、外敵の搾取から富を守るということである。
- ・国には、決まりが大事である。分けるだけではなく、繋ぐ手段としてルールが必要である。
- ・富や人々を守るということもあるが、国ができた歴史を紐解けば、最初にはそこに住む人達に共通な言語や宗教、文化があったはずであり、それらは総称したらアイデンティティではないか。だから、必要なものは、アイデンティティである。
→文化やアイデンティティが国には必要との意見が出たが、仮に異なる文化やアイデンティティを持つ2つの地域が一緒になり、1つの国になってもそれぞれ2つの文化・アイデンティティを守ることはできるのではないか。それらを守ることができるかどうかは、その統合された国のルールによる。
→国ができた後で、言語や文化、アイデンティティが変わってしまったら、国ではなくなってしまうか。
→そうではない。その元の国の領土があって、人々がいれば、なくならないはずである。そして、また文化やアイデンティティができていく。国に先立って、文化やアイデンティティがあるのではない。
・領土とは、そのルール・決まりが適用される範囲のことである。

3. まとめ:

- ・対話では国にとって欠かすことのできない機能の一つとして「人々の富を守る」が挙げられた。テーマ提起者としては、最近各国で論争が起きている移民の話に直結するこの機能の重さが印象に残った。